

令和5（2023）年度 地域連携教員研修 実施報告

実施日：令和5年11月24日（金）

本研修では、県内各地から小・中学校、高等学校、特別支援学校の地域連携教員が集まり、学校と地域が連携・協働した教育活動を推進する目的や意義を確かめるとともに、地域連携教員の役割や地域の教育資源を生かすための方策・アイデアなどを学びました。

○ 説明「地域連携教員の果たすべき役割とは」

栃木県総合教育センター生涯学習部長 井上 昌幸

まず、学校と地域の連携・協働の意義や期待される効果について確認した後、学習指導要領の改訂や第4期教育振興基本計画の策定等、社会状況の変化に基づいて、今後地域連携教員に求められることになる役割についての説明がありました。続いて、学校と地域の連携・協働の具体的な姿として、地域とともにある学校への転換→子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築→学校（という場）を核とした地域づくりの推進の3つが示され、いくつかの実践事例を基に地域学校協働活動の大きな目標の一つである「地域づくり」につなぐ方策が示されました。そして最後は、活動に迷ったときの「より所」となるポイントも提示されました。受講者にとって、地域連携教員としての今後の活動の在り方について、示唆を得る機会となりました。

○ 講話「学校と地域の連携・協働における地域連携教員の関わり方」

大正大学地域創生学部地域創生学科 教授 浦崎 太郎 氏

浦崎氏は、高等学校在職中、自治体や地域の諸団体と連携し、地域課題の解決に向け多様な大人が協働する現場に生徒を参加させる「地域課題解決型キャリア教育」を実践されるなど、地域資源を生かし生徒の自己探求・自己実現を促す取組を推進されてきました。その豊富な経験に基づき語られる言葉から、地域との連携充実を図る際の要点と共に、それが子どもの大きな成長へと密接につながる理由が明確に示されました。各教科の学習で身に付けた基礎的な学力が社会のどこで生かされるのかを実感できる、社会の中で自分のどんな力が生かせるかを推し量ることができる、人の役に立つ喜びを知ることができる等、受講者は講話を通して、地域との連携が未来を担う子どもたちに必要な力を身に付けさせる上で非常に重要な働きをもつことを再確認しました。そして、校内での地域連携についての理解促進や体制整備・強化を図る上での大きな推進力を得ることができた様子でした。

○ パネルディスカッション「地域の教育資源を生かした教育活動の充実を目指して～活動事例から学ぶ～」

宇都宮市立一条中学校 地域連携教員 半田 綾香 氏

県立日光明峰高等学校 地域連携教員 藤井 啓太 氏

大正大学地域創生学部地域創生学科 教授 浦崎 太郎 氏

総合教育センター職員

県内2名の地域連携教員が登壇し、各校の取組のねらいや内容、成果、取組を継続・発展させるために必要なこと等についての発表がありました。その後、受講者がもう少し詳しく知りたい、説明を聞きたいと感じたことについて、実践者からの回答や浦崎氏からの解説、補助説明、さらに受講者からの追加質問などがありました。この一連のやりとりを通じて、地域の教育資源を学校の教育活動充実に結びつけるためのポイントを確認しました。発表者の熱心な説明や浦崎先生の的確な指導助言により、多くの受講者が地域連携の業務に対するモチベーションを高めることができました。



○ 研究協議「今後の地域連携教員としての取組を考える」
総合教育センター職員

校種毎のグループとなり、それまでの説明、講話、パネルディスカッションから学んだことやこれから地域連携教員としてどのようなことに取り組もうと考えているかについて、受講者同士で話し合いを行いました。また、各学校で取り組んでいることについての情報交換も行いました。どの受講者も、今後の自校での取組を見据え、積極的に意見を述べていました。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ 学習指導要領と地域連携のつながりがとても大きいことを認識できた。
- ・ 子どもを取り巻く社会の変化、課題について改めて考えることができた。
- ・ 現在の取組が将来の子どもたちのどこにつながるかを意識していくことの大切さを再認識した。
- ・ 地域連携教員の役割について再確認できた。校内での周知の重要性についても考えることができた。
- ・ 地域連携という役職に対して前向きに取り組んでいきたいと感じた。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp